

Nordic Market Biweekly Report

北欧市場ニュース～北欧投資の魅力と最新情報を隔週でお届けします

情報提供資料

2015年10月7日

★為替・金利の動向

対円レート推移

(2015年9月18日～2015年10月2日) ※単位は円

	9月18日	9月25日	10月2日	期間中騰落率
ノルウェー・クローネ	14.77	14.18	14.20	-3.9%
スウェーデン・クローナ	14.62	14.29	14.31	-2.1%
デンマーク・クローネ	18.31	18.01	17.98	-1.8%
ユーロ(フィンランド)	136.62	134.42	134.12	-1.8%

※為替は三菱東京UFJ銀行発表の日本時間午前10時仲値を参照

期間中(2015年9月18日～10月2日)、北欧4カ国の通貨は対円で下落しました。

9月24日ノルウェー中央銀行は、市場の事前予想に反し政策金利を0.25%引き下げ0.75%と過去最低の水準に引き下げました。さらに原油安の影響を受けた国内経済を支えるため、追加利下げの可能性も示唆しました。これらを背景に、ノルウェー・クローネが特に大きく下落する展開となりました。

※デンマーク・クローネは、ユーロにペッグされているため、ユーロとほぼ同様の動きとなっています。

対円レート推移

(2014年1月6日～2015年10月2日)

※2014年1月6日を100として指数化



出所)ブルームバーグデータをもとにBNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社作成

銀行間取引金利3カ月物推移

(2015年9月18日～2015年10月2日) ※単位は%

	9月18日	9月25日	10月2日	期間中変動幅
ノルウェー	1.210	1.070	1.120	-0.090
スウェーデン	-0.295	-0.281	-0.296	-0.001
デンマーク	0.030	-0.008	-0.045	-0.075
ユーロ圏(フィンランド)	-0.037	-0.041	-0.044	-0.007

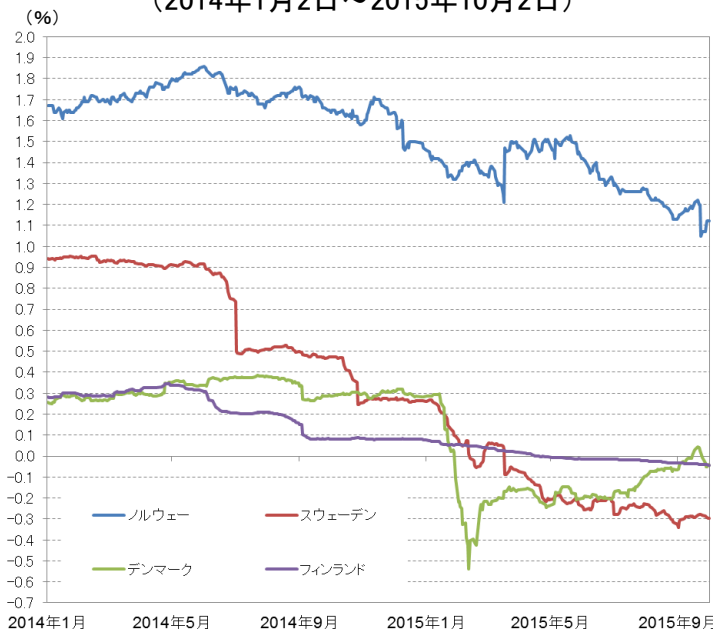
期間中(2015年9月18日～10月2日)の北欧4カ国各国の銀行間取引金利の動きは、小幅ながら低下しました。

ノルウェーでは、想定外の政策金利引き下げを受け、銀行間取引金利は、比較的大きく低下しました。

9月25日に格付け会社スタンダード・アンド・プアーズ(S&P)が、格付け見通しを「安定的」から「ネガティブ」に引き下げたフィンランドでは、銀行間取引金利はマイナス圏の水準で低下が継続しました。

銀行間取引金利3カ月物推移

(2014年1月2日～2015年10月2日)



出所)ブルームバーグデータをもとにBNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社作成

【本資料に関するご留意事項】

本資料は、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社(当社)が、2015年10月に作成したものです。特定の金融商品の取得勧誘を目的としたものではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の情報は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

☆北欧ニュース

<ノルウェー： 堅調に推移するガスの輸出>

原油安に悩まされているノルウェーでは、ガスの輸出が堅調に推移しています。ノルウェー最大級のトロール・ガス田における2015年の生産量は、過去8年間で最大になることが予想されています。リーエン石油・エネルギー大臣によると、年内の天然ガス生産量は1,000億立方メートルを上回ることが期待されており、必要な設備投資が伴えば、今後もこの水準を維持することが可能であるとしています。ノルウェーでは、原油安による経済への悪影響をカバーするために、より多くのガスが生産されています。

<デンマーク： デンマーク史上最大のIPO>

デンマークでは、国営エネルギー企業であるDong Energyが株式公開をすることが予定されており、その規模はデンマーク史上最大となることが予想されています。同社の株式公開は、その規模から市場の注目を集めており、公表された情報によると、株式公開の準備を進める上で石油やガス関連ビジネスの戦略的な見直しが行われています。一部のアナリストによると、戦略的な見直しの結果、よりリスクが高い探査・生産事業は売却される可能性が高く、同事業の売却によって得られる資金を再生可能エネルギーにあてることが可能になるため、長期的な成長戦略にとってプラスになることが期待されます。デンマーク政府は、1年半以内に株式公開を完了させることを目指しており、株式公開後も、デンマーク政府による株式の保有比率は50%を上回ることが予定されています。

<スウェーデン： ごみ不足で悩むスウェーデン>

ごみ焼却場で25万世帯分の電気と95万世帯分の熱が生成されているスウェーデンでは、ごみ不足に悩まされています。そのため、スウェーデンは、他国からごみの輸入をしています。主な輸入元の一つは、隣国のノルウェーです。スウェーデンの廃棄物処理コストは低く抑えられているため、ごみの輸送コストを考慮しても、ノルウェー国内で埋め立てをするより安く収まります。また、スウェーデンの廃棄物管理協会によると、3トンのごみから生まれるエネルギーは、石油1トンまたは石炭2トンから生まれるエネルギーに匹敵するようです。

<フィンランド： 白髪染めやケチャップなどで成長を見出す製紙会社>

電子化が進み、紙の需要が縮小するなか、欧州の製紙会社では、甘味料や白髪染めなど、より利益率の高い素材を生産するために、設備の入れ替えが行われています。その背景には、2014年までの7年間で、パルプと紙の需要が80%も下落したことがあります。このため、フィンランドの製紙会社であるStora Enso Oyjなどは、木材から生産される新しい素材を模索することになりました。その結果として、木材などを原料とするバイオ素材がこれら企業の新しい成長源として注目されるようになり、2014年のStora Enso Oyjの利益の60%以上は紙以外の製品によるものでした。現在同社は、ケチャップやドレッシングの生産に利用される原材料や白髪染めなど、紙以外の幅広い製品を製造しています。

出所：各種資料をもとにBNPパリバインベストメント・パートナーズ株式会社作成

※ 文中に登場する企業名等は情報提供のためのものであり、当社が特定の有価証券等の取得勧誘を行うものではありません。



BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第378号

加入協会 一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

【本資料に関するご留意事項】

本資料は、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社(当社)が、2015年10月に作成したものです。特定の金融商品の取得勧誘を目的としたものではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の情報は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。